

市長定例記者会見 ２００９年１０月８日

- ・ 日 時 平成２１年１０月８日（木）午前１１時００分～
- ・ 場 所 本館３階第１会議室
- ・ 記者数 １６人

議題 「サイクルフェスタ in 瀬戸風バンク」について

（市長）

今日はイベントのご案内ですが、「サイクルフェスタ in 瀬戸風バンク」の開催について説明させていただきます。「サイクルフェスタ in 瀬戸風バンク」は、自転車競技の普及啓発や自転車利用の促進を目的といたしまして、財団法人日本自転車普及協会と松山市が共同で各種自転車競技やイベントを実施するものでございます。この事業は２日に分けて行うこととしておりまして、公募した参加者によるタイムトライアルレースのうち、個人競技を中心とする「パートⅠ」を１０月２４日土曜日、チーム競技を中心とする「パートⅡ」を１１月２９日日曜日に、それぞれ松山競輪場の瀬戸風バンクにおいて開催いたします。またタイムトライアルレースなどの自転車競技と合わせ、環境や健康増進面において注目を集める自転車をテーマにしたトークショーやミニライブをはじめ、日常生活と密接に関わる自転車をより安全かつ快適に乗っていただくための各種セミナーを実施するほか、２０１０年最新型モデルのスポーツサイクルやペロタクシー、これは電動アシスト付自転車タクシーですが、これの展示試乗会など、自転車の持つ魅力を幅広い世代の方に触れていただく多彩なイベントなども行うこととしていますので、当日は、より多くの方にご来場いただき、大変季節のいい秋のシーズンですから、その秋の日を健康的に楽しく過ごしていただきたいと思います。

詳細につきましては担当のほうから説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

（質問）

国の補正予算凍結に関して、予算の説明会のときにも少し話が出され、それ以降にも民主党から方針が出るなど、いろいろと状況が変わってきている部分があると思うが、今の松山市の公共事業での凍結後の松山外環状線道路整備、あるいはスクールニューディール政策に関してどういう影響があるのか、また今の民主党の政策方針についてどう考えているのか。

（市長）

金額だけが表に出てきていますが、２兆５，０００億の詳らかな中身というもののについての情報がまだつかめていませんし、それからさらなる上積みの作業もされているようですから、それが出てからでないと何処が影響を受けるのか、把握できない段階では何とも言いよ

うがないんですけれども、大枠の中で地方には極力影響を与えないようにという方針、それから景気には配慮するということでもありますから、その辺りはしっかりやってくれるものと信じて、今の段階では待っているという状況です。

（質問）

呉・松山フェリー航路の廃止に続き、先日、防予汽船株式会社が民事再生法の適用申請をしたようだが、理由の１つとして高速道路の値下げが含まれているということで、民主党は完全無料化を公約に掲げているような部分もあるが、フェリーが就航する港は重要な交通拠点という意味でも、市長の考えを伺いたい。

（市長）

この政策については、一長一短があるというのは多くの方が指摘をしているところだと思います。そういう中で前政権の下に高速道路料金が土日祝日１，０００円という実施がなされて、民主党の方は無料化というマニフェストへの記述がありこれからということですが、すでに１，０００円の段階でいろいろな影響が出ていますから、大きな施策の展開というのは、描いていたプラスの効果がもたらされる一方で、見えない部分でひずみが出てくるとことは当然考えられることだと思います。すでにそうした兆候がフェリー業界、あるいは公共交通機関にも出ていますし、またこうした展開を進めていくと渋滞の発生等々も予測されるところでありますから、本当に慎重に進めているのであれば、いろいろな想定も考慮しながらやるべきだと思います。とりわけ、こうした現実には瀬戸内海は船の航路が非常に多いわけですから、なにも松山だけに限ることなく、船舶関係への対応というのをどうするか、無料化というものをもし実施する場合は、当然のことながら他の公共交通機関への影響というものを考慮した上での施策にしなければ、混乱を招くと思いますので、その点は強く声をあげていきたいと思っています。

それから渋滞の問題もありますので、本当にこれがプラスなのかマイナスなのかというのは、ある意味では実施されてみないと分からないところがあると思いますが、例えばモデル地区で試験的に実施するとか、場合によっては有料区間を残すとか、いろいろな選択肢を考えるべきで、いきなり実施するようなことは、やるべきではないかなと思います。たぶんその辺りは民主党の中からも、慎重に進めていくというような発言はいくつか出てきていますので、今、申し上げたような実態への影響というものを考えた上で、政策を展開していくことになるのではないかと考えています。

（質問）

現時点で、具体的に松山市として何か対策をとる考えはあるのか。

（市長）

まだ国の大枠の政策が見えませんから、今の現象というものは前政権の下での影響なので、新政権の下でそれを受けて、どういうことをするかということはまだ見えてないです。

（質問）

国の補正予算の凍結などに関して、決定過程が一方的というか、トップダウンというような感じが受けられるが、過程に関してはどう考えているか。

（市長）

補正予算という特殊要因での作業ということをかながみれば致し方ない面もあると思いますが、中期それから長期という面で見れば、やはり現場の声というものが非常に大事になっていますから、それこそ一刻も早く前々からこだわっている国と地方の協議機関の設置をいち早く進めていただきたいと思います。

（質問）

先日、原口総務大臣が国と地方の協議機関の設置について、多くの地方の意見を聞いていきたいという考えを示したが、これについてはどう思うか。

（市長）

これはもう本当に何といたしますか、ここ数年いろいろな制度の展開等々がありましたが、その度に地方は混乱してきたわけですから、そうした声も届いていると思いますので、そのためにも国が一方的にやるというのではなくて、現場である地方の声を聞かなければ政策展開というのはスムーズにはいかないという、ある意味、学習効果というものがしっかりと政権の中に入っているということを期待したいと思います。

（質問）

現時点で、法的機関によるそうした議論というものも必要と考えているか。

（市長）

今の補正予算のことですか。

（質問）

補正予算についても伺いたい。

（市長）

補正予算は、もう時間がないですから難しいところですね。だからそれは政権が誕生して、新しい政権交代という歴史的な現象の中で、速やかにその直前に編成された補正予算の見直しというものは、公約の中にも入っていますから、その実施がもう間近に迫っている段階で進める作業ということを考えれば、理想論で言えば早くやったほうがいいのですが、時間的な余裕はないだろうなということも理解できます。ただそれは今回限りの話にしてもらいたいと、平行して先ほど申し上げたような協議機関がしっかり設置されて、今後はすべての問題について、現場が絡む問題についてはしっかりと地方の意見が反映されるような仕組みを早く作ってもらいたいと思います。

(質問)

今週末から台湾の台北に行って、チャイナエアラインや台北市長の表敬訪問などというスケジュールだが、訪問先でどういう話をするつもりか。

(市長)

台湾は非常に紳士的な国でありますし、経済力もありますので、本市の魅力が伝われば大変大きなマーケットとして期待できるということでもあります。そうしたことも含め、台北の松山（ソンシャン）空港と本市の松山空港という同じ冠を抱く空港がありますので、そこをまた1つのターゲットにした展開ができないかなという可能性を探っていきたいと、可能性を探るというよりは実現したいと思っています。わたしは以前国の方で仕事をさせていただいたときに、台湾の亜東関係協会の方々と親しくさせていただきまして、その方々がそれぞれ十数年の時を経ていろいろなポジションに就かれていますので、再会も含めて側面的に協力していただけることになっています。そうした人脈もフル活用しながら、道を開いていきたいと思っています。

(質問)

それはチャーター便か。

(市長)

そうです。

(質問)

チャイナエアラインのどういう人と会うのか。

(市長)

できれば社長に、副社長は間違いなくオーケーなのですが、個人的なルートで社長になんとか会えないか、お願いしているところです。

(質問)

台北松山空港から本市の松山空港へのチャーター便の就航を依頼するのか。

(市長)

そうです。台湾は国際的に特殊な立場にいますので、東京で一般的にいう大使のような方にも直接お会いして来まして、「非常に面白い。側面協力しますよ」というお言葉もいただいていますので、いろいろな力が働いていると思います。

(質問)

台北市の訪問は、将来的に姉妹都市ということも考えているのか。

（市長）

台北市の市長さんは実はわたしの知人の大親友ということでしたので、その方からお願いし会っていただけることになりました。わたしは初対面なのですが、わたしの知人とは昔からの知り合いなので、そうしたところから、中国や台湾などのアジアの国々は人間関係が大事ですから、まずはそれを作っていこうと思っています。

（質問）

上海は何か言っているのか。

（市長）

ないでしょう。今、台湾は上海とも交流がありますから。

（質問）

3都市の空港で、中国便と台湾便が同じスポットにいるということはかなり珍しいと思うのだが。

（市長）

そうですね、高松も台湾のチャーター便が飛んでいます。ただ本市は、現在の台湾の国際空港からではなくて、今は国内空港として使っている台北松山空港から本市の松山空港へ飛ばしたいのです。だから昔、台北市松山区にある台北松山空港が国際空港であったわけです。

（質問）

移転したのか。

（市長）

そうです。それで新しい空港ができてそちらに海外路線は全部シフトし、台北松山空港は国内便の空港として残っています。ところがその後、台湾に新幹線が開通しまして、非常に国内空港の需要だけではなかなか運営が難しいという状況になってきているそうです。そこで、現在のところ、海外路線については台北松山空港・香港国際空港間だけは認めたようです。さらに、まだ正式決定ではありませんが来年の10月くらいには羽田空港への就航を認めようかという動きになっているようです。日付も分かりません。来年に羽田空港・台北松山空港、昔の台湾の国内空港、それを認める方向で、今、議論が進んでいるようですが、できれば羽田空港の前に台北松山空港と本市の松山空港間にチャーター便を飛ばせないかなというのが、1つの個人的な目標であります。

（質問）

いわゆる台湾の台北松山空港から日本の空港に向けて、こちら側としては初めてとなるかたちでということか。

（市長）

そうです。やはり潜在的な需要としては大変期待できると思います。実は、台北との航路がある小松空港ですが、石川県の和倉温泉の加賀屋に、台湾から大勢の旅行者が訪れていて非常に活気を呈しています。そうしたことも含めて、四国には今まで縁がないですから、ただ台湾の少し上の年代には日本語を話す方がおられますし、そして日本の文学に非常に精通している方も多いようです。そうした層をターゲットにできるのではないかと、特にスペシャルドラマ「坂の上の雲」は台湾国内でも放送が予定されています。そうしたことも含めて、魅力があるのかなと思っています。

（質問）

先日、議会で議員の海外都市への行政視察が承認されたが、この取り組みの費用対効果をどう捉えているのか。

（市長）

それは分かりません。議会でどういう活動を展開されるかということは、議会でいろいろと議論されていると思いますので、わたしがどうこういうお話ではないと思います。

（質問）

正岡子規の「なじみ集」について、昨日、資料収集委員会の専門家の審査が終わり、それぞれの意見でおおむね優れた資料ということで、収蔵を望む声で一致したようだが、今後はどのようにお考えか。

（市長）

基本的には、専門家の方々が価値があるということですから、前向きに考えてはいきたいと思っています。ただ、どんなに高くても6,000万円以下ではあると思います。どうして6,000万円以下と言ったかいうと、実は6,000万円以上になると議決案件になります。ですから、議会の議決案件でない範疇で収まるとは思いますが、ただこれだけ注目を浴びていますし、やはりその価値というものを多くの人が賛同しないとなかなか難しいと思います。今回、非常に注目を浴びているということですから、議会の皆さんにもご意見を聞きながら、最終的な結論を下していきたいと思っています。

（質問）

とりわけ松山に関係する俳人も多く載っているようだが、交渉を先にするのではなく、議会の皆さんの意見を。

（市長）

はい、そうです。いろいろなご意見を、これだけの価値はあるといわれて注目をされていますから、その辺りのご意見も聞いてみたいと思います。

(質問)

6,000万円という境界みたいなものの話があったが、例えば6,000万円以下になりそうな場合でも議会の議決なり承認を求めるのか。

(市長)

承認ではなく、ご意見を聞くということです。

(質問)

議決行為ではなくとも意見を聞いて同意を得るということか。

(市長)

そうです。

(質問)

いつごろまでに聞くのか。

(市長)

できるだけ早くです。

(質問)

議会の意見を聞いて、賛成であるということになれば交渉するのか。

(市長)

はい、交渉しようかなと。何と言うのか、交渉というのも、こちらが第3者というこうした専門家の方にひとつの評価をある程度出していただいて、その辺りでという以外は出来ませんから、それを上回るお金でないと売らないというのであれば、これはもうどうしようもないということです。

(質問)

評価額というかたちで3人の専門家にある程度金額を出してもらうのか。

(市長)

交渉する場合です。

(質問)

まだ出ていないのか。

(市長)

まだ出ていません。だから、こちらが6,000万円というのはないですよ。ただ議決があるかいないかの目安です。この金額がいきなり出たら、相手の人は絶対6,000万円で売るとか、そういうことになってきます。だから、それは全然関係ないですから。

(質問)

手続きとして議会の意見を聞くのか。

(市長)

議会のご意見をうかがって交渉します。

(質問)

交渉は3人の専門家の評価額に基づいてするのか。

(市長)

そうです。こちらは公の機関ですから、評価額というのは1つの大きな目安になると思います。

(質問)

最終的に買う買わないを決定するのは。

(市長)

相手があることですから、先ほど申し上げたように分かりません。売る側と買う側の意思がフィットしたときに売買は成立するわけですから。

(質問)

買う側である市としては、何か会を設けて決定をするのか。

(市長)

委員会の意見を参考にするだけです。だから交渉するのはこちらが直接やりますから、特にその会を設けるわけではありません。

(質問)

市長が決めるのか。

(市長)

はい、そうです。通常は今の議決を必要としないものも、結構購入することもあるのですが、そのときも今申し上げたような評価額というものを基に交渉し、交渉が成立した場合は購入します。交渉が成立しない場合は御破算というルールで行っていますので、通常と変わらないということです。ただ今回は金額がそこまでいかなかったとしても、注目度が非常に高いので、やはりご意見を聞いておく必要があるのかなと思っています。

(質問)

文教の委員会の皆さんに。

(市長)

会派でいいのか、まだ決めていません。

(質問)

目途としては年度内か。

(市長)

早い方がいいです。買う、買わないということを決めるということについては、早い方がいいと思います。

(質問)

台北松山空港と本市の松山空港間のチャーター便について、いつごろを目標にしているのか。

(市長)

羽田空港就航の前です。

(質問)

羽田空港はいつからか。

(市長)

本当にわかりません。ただ、そういう方向で進んでいることは聞いています。

(質問)

以前から市長はこの構想を持っていたと思うが、実際にチャイナエアラインの本社を訪問し交渉するのは今回が初めてか。

(市長)

はい、初めてです。

(質問)

今回の訪問で、その場でほぼ内諾というようなことも考えられるのか。

(市長)

いやそれは行ってみないと分かりません、その場で即決というわけにはならないと思いますが、面白いから前向きに話し合いましょうということにはなるかもしれません。

(質問)

中田前横浜市長らと１０月に政治団体を結成するという話があったと思うが、具体的なスケジュールはどうなっているのか。

(市長)

10月末だったと思いますが、具体的なスケジュールは覚えていません。

(質問)

それと関連して、先般の大阪府の堺市長選挙で与野党が相乗りして応援した現職の候補ではなく、いわゆる橋下大阪府知事が中心となった首長連合が応援した新人が市長に当選したことについて、この現象は国民運動に対してどのような影響を与えたと評価しているか。

(市長)

あまり考えていませんが、ふと考えておかしいなと思ったことをストレートに伝えて行動を起こしているだけで、そう大きなちょうかん図があってそれに向かって一つ一つやってるというわけではありません。だからこの前の堺市長選挙の場合は、その相乗りが全部悪いというわけではないのですが、なんというのか、その直前に衆議院議員総選挙があってその直後の選挙でいきなり一緒にいるというのは、やはりおかしいと思いました。もう一つは、本来これはわたしの考え方でほかの方は違うのかもしれませんが、地方分権社会が本格的に進んだ場合、以前から何度も申し上げていますが、国と地方の立ち位置という問題が出てくると思います。危険なのは政党の勢力拡大の材料として首長選挙というものが利用される可能性もあるわけですから、それは地方分権の本来の趣旨からいうと少し違うのではないかと思います。首長においての一番大事なことは、その人が何をするかということそれぞれの地域の市民や県民の皆さんに打ち出して、それを政党が見てこの政策であったらいいということで推薦を決めたり、支持をしたりというのであれば順番として分かるのですが、どうもその勝つということの手段として、それを後にして、最初に推薦を取ろうというような動きだったので、それはこれからの地方分権の時代とは少し違うのではないかという議論をしていました。

(質問)

いわゆる自民党に対しても民主党に対しても、市民が満足していないのかというところまではいかないのか。

(市長)

そこまでは、だから筋論を見ていたのではないかと思います。

(質問)

「よい国つくろう日本国民会議」のスケジュールは未定か。

(市長)

10月の末だったと思います。

(質問)

その後、具体的に煮詰まっている部分はあるのか。

（市長）

先日、わたしは議会があって行けなかったのですが、みんなは原口総務大臣に会いに行ったようです。新聞にも出ていました。

（質問）

どういうことを協議したのか。

（市長）

やはり地方の声を聞いていただきたいということ、それからそもそも首長連合を作ったときに約束した国と地方の協議機関の設置を一番に求めて、我々はきっかけを作っただけですが、それが伝播するかたちで全国知事会の動きがあり、指定都市市長会の動きがあり、いろいろな動きがうねりとなって各政党のマニフェストに記述されていったわけですから、そのことを早くしっかりとやってほしいという意思を伝えに行ったと思います。

（質問）

堺市長選挙に続いて、今後どこかの自治体の首長選挙や来年の参議院議員選挙など、首長連合が候補者を応援することはあるのか。

（市長）

そんなにたいした組織ではないですから、ネットワークですから、特に今はまったく考えていませんし、ただやはりおかしいなというようなことが現象として起こった場合は、みんなで訴えていくべきなのではないかなと思います。もしあった場合は、それはあるかもしれませんが、戦略的にどうこういうのはまったくありません。ただ一つ言えることは、やはり先ほど申し上げた本格的な地方分権社会ということを求めていく地方の立場からすれば、本当に改革思考、本当の意味での改革思考の首長が全国に次から次へと増えていくというのは非常に大切であり、好ましいことかなと思います。国に対してものを言うからには、まずは自分たちが行政改革を徹底的に行わなければならないわけです。その実績を積み上げてこそ、国に対しての発言力というか説得力というのが生まれてくるのではないかなと思います。